

遺跡からみた

山梨の地域性

山梨の地域性って？

山梨県を大きく分けると甲府盆地を中心とする中西部と富士山の北麓を含む東部地域に分けられます。

また、中西部でも峡北・峡南・峡中・峡東などと分けて呼ぶのが一般的です。

では、過去の時代を調査する発掘調査からも、このような地域性は確認されるのでしょうか？

今回は、今年度調査を実施した峡南と東部地域にある4つの遺跡を取り上げ、遺跡からみられる地域性について取り上げていきたいと思っています。



今回取り上げる遺跡

鯉沢河岸跡



青柳河岸跡



古観音遺跡
(写真は長作観音堂)



玉川金山遺跡

今回取り上げる遺跡の年代

10,000年前

0年

1,000年

2,008年

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

奈良・平安時代

中世

近世 現代

玉川金山遺跡は、山梨県の東部地域に位置しています。山梨県東部は、神奈川県・静岡県などと接していることから、中西部地域とは異なる地域性があることが遺跡調査から分かりました。

遺物にみえる静岡県からの影響

たま がわ かな やま い せき
玉川金山遺跡

玉川金山遺跡の調査により縄文時代早期や奈良時代において集落が展開していたことが分かっていますが、遺跡から出土した土器から甲府盆地周辺よりも他の地域との結びつきが強いことが分かってきました。縄文時代早期の生活面から出土した土器には「絡条体圧痕文(らくじょうたいあっこんもん)」と「微隆起線文(びりゅうきせんもん)」を組み合わせた模様が施されていますが、この模様を持つ土器は静岡県沼津市に位置する清水柳遺跡から多く認められています。

また、奈良時代の住居跡の中から駿東型(すんとうがた)甕という静岡県東部地域を中心に多く出土する土器が確認されました。

縄文時代早期と奈良時代では年代が大きく違いますが、静岡県からの影響が強いという点で共通していることが遺物から分かりました。それぞれの歴史的背景は異なりますが、静岡県から人や土器が流入した結果、生じた現象だと考えられます。



縄文時代早期の土器

奈良時代の駿東型甕

重要文化財長作観音堂のなぞ

ふる かん のん い せき
古観音遺跡

甲府盆地から約70 km、大菩薩峠を越えた東京都との県境にある小管村長作(ながさく)地区には、鎌倉時代後期(約700年前)に作られた長作観音堂(ながさくかんのんどう)(国の重要文化財)があります。

しかし地元では代々「この観音堂は、元は『古観音(ふるかんのん)』にあったものだ」と伝えられてきました。『古観音』はこの地点から神楽(かぐら)入沢(いりざわ)沿いに約1 km登った、三頭山(みとうさん)山腹にあります。この伝承をもとに、山梨県内中世寺院分布調査の一環として古観音遺跡の発掘調査をしたところ、2間×2間の礎石建物跡(そせきたてもものあと)と集石遺構(しゅうせきいこう)を確認しました。この礎石が観音堂のものかは不明ですが、中世から近世にかけての建物であったと思われます。でもなぜこんな山奥に寺院や建物があつたのでしょうか？実は観音堂が建つ場所は、上野原や富士吉田・奥多摩・甲府盆地など各方面への道が交差する交通の要衝でした。中世には、地元有力者の財力により、この地に立派な観音堂が建立されたと考えられます。



発掘調査のようす

鰍沢河岸と青柳河岸は、甲府盆地を代表する二大河川である笛吹川と釜無川が甲府盆地一円の水をすべて集めて合流する地点からやや下流の富士川右岸に位置し、江戸代はじめに開かれた富士川水運の船着場を中心とする遺跡で、黒沢河岸（市川三郷町）とともに「甲州三河岸」と呼ばれていました。

大地に刻まれた災害の爪痕が今に伝えるもの

かじか ざわ か し あと 鰍沢河岸跡

鰍沢河岸は、江戸幕府の直轄領である甲府盆地一円の年貢米を江戸へ廻送するため、廻米を集積する米蔵が幕府により設定され、陸上交通路の駿州往還の拠点である宿駅も設置されたことから、陸路、水路の要衝として繁栄を極め、昭和3（1928）年の富士身延鉄道（現在のJR身延線）の全線開通により舟運の役目を終えるまで甲府盆地の経済・文化の玄関口としての役割を担いました。

発掘調査では、度重なる洪水や氾濫に対応するため、石垣を築き盛土による嵩上げを繰り返しながら高さを増していく状況が検出されています。また文政4（1821）年1月16日に起こった鰍沢文政大火の爪痕となる被熱した陶磁器の混在した焼土層や、近世以降と推定される地震の痕跡である噴砂など、多くの災害に見舞われた様子が確認されています。一方、「元禄一分判金」が建物基礎の石垣脇から出土していることから、家や蔵を建てる前に繁栄の祈りを込めて大地に奉納されたものではないかと考えられます。これらの検出状況から、河岸を守るために自然との共生を図りながら洪水常習地帯に生き続けた人々の息遣いや祈りのこころを読み取ることができるでしょう。



被熱した磁器が見られる焼土層



元禄一分判金

これらの検出状況から、河岸を守るために自然との共生を図りながら洪水常習地帯に生き続けた人々の息遣いや祈りのこころを読み取ることができるでしょう。

甲州三河岸の一つ

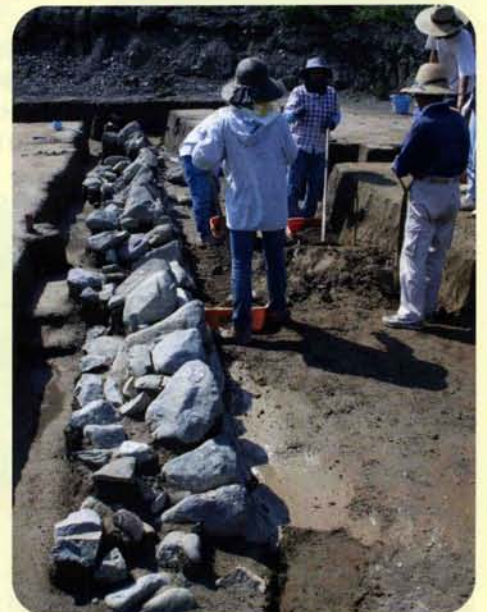
あお やぎ か し あと 青柳河岸跡

増穂町青柳河岸跡とその周辺甲州三河岸の一つといわれている「青柳河岸」ですが、江戸時代の終わり頃から明治時代にかけて描かれた絵図があります。また、明治21年の測量図を見ると、まだ河岸が存在していたことがわかります。さて、今回の調査では、この絵図や測量図を参考にして発掘調査を行ったところ、河岸の本体に行く道の存在が明らかにされました。発掘調査では、様々な陶磁器片やガラスビンなど多量に見つかりました。中でも、増穂町にあったと思われる医院名が刻まれた薬ビン、「ロート目薬」の薬ビンなど時代を反映したものも見つかりました。また、調査区の北では、石垣も見つかりました。現在、地下に埋もれてしまい、知る手掛かりの少ない時代が明らかにされようとしています。いろいろな資料から、町の様子の一部を垣間見たような気がいたします。



明治21年の測量図

（図中の1は鰍沢河岸跡、2は青柳河岸跡）



調査区の北側で見つかった石垣

整理室だより 甲府城から出土した鉛製品

写真右の3点は棹(さお)で、稻荷曲輪の煙硝蔵南東付近の瓦溜から発見されたもので、断面形が半月状を呈しています。資料は長さ約20 cm、重量約200 g程度あります。大阪の住友銅吹所跡からも同類のものが発見されております。鉛棹は4本でセットとなる型に流して棒状に製品化していること(『鼓銅図録』住友家が19世紀初めに木版色刷りで発行した銅精錬の案内書)が知られており、概ね1724年以降の遺構面より確認されていることから、本資料も勤番支配時代の所産と推定されます。城郭跡からの出土事例としては、駿府城跡から楕円形皿状のものが発見されております。

写真左の1点は普請等で用いたと考えられる測量道具と思われるもので、数寄屋曲輪から発見されたものです。全長約3cm、重量は13 gあります。造りの粗雑さ等から判断すると銀秤の錘とは考えにくい点から「下げ振り」と想定されます。出土地点からは1601年以降に城代として入府した平岩親吉時代に執り行ったと考えられる地鎮遺構を伴うため、該期以降の所産と推定されます。「下げ振り」と考えられる出土事例としては、天正期の銘のある瓦質のものが和歌山城で発見されております。

これらの資料については、含有鉍物の比重などの化学分析等を行なうことにより産出地の特定、既報告済みの城内出土鉛玉との比較等を行なえば用途も明確に提示できる可能性もあります。推定される鉛の産出地としては、住友の主な供給元が秋田県の太良鉍山であることから、資料の外見的特長から同様の可能性もあります。

棹(さお) …溶かした金属を型に流しこんで固めたもの、インゴット。



甲府城跡出土の鉛製品資料

埋蔵文化財センターからのお知らせ



甲府城発掘展 - 出土瓦の秘密 -

山梨県教育委員会で開催している甲府城跡から出土した瓦の調査の結果を公開するものです。この展示を通じて甲府城を身近に感じ、かつての雄姿を思い巡らす機会となることを願っております。

期間 2008年4月4日(金)～4月13日(日)
時間 午前9時～午後5時(但し、入場は4時30分まで)
(4～6日午後8時まで閉館)
会場 舞鶴城公園 稻荷櫓(入場無料)
お問い合わせ先 山梨県埋蔵文化財センター
Tel 055-266-3016

記念講演会

『最盛期の甲府城の姿—甲府城の景観を考える—』

日時 4月5日(土)午後1時30分～3時
場所 恩賜林記念館2階大講堂(入場無料)
講師 信玄公宝物館長 田代 孝

埋蔵文化財シンポジウムと下半期遺跡調査発表会を開催しました

3月15日に埋蔵文化財シンポジウム「平成の兵どもの城づくり」の特別講演とシンポジウムを開催し、130名を超える方々に参加して頂きました。

また、3月23日に下半期遺跡調査発表会を実施しました。平成19年度に行った5つの発掘調査について報告があり、90名の参加がありました。

編集後記

厳しい寒さが緩み始め、春のきざしがみられるようになってきました。今回は遺跡からみる山梨の地域性というテーマをもうけ、峡南と東部地域における特徴を遺跡から探りました。今後も発掘成果や普及活動の様子その他、様々なテーマを取り上げて埋文やまなしに掲載する予定です。ご期待ください。

山梨県埋蔵文化財センター

埋文やまなし 第29号

発行日 2008年3月25日
編集 山梨県埋蔵文化財センター
発行 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
印刷 株式会社 峡南堂印刷

